

台湾向け「梨の花芽穂木」輸出の取組み

JA全農にいがたでは、県内梨農家の収入確保と台湾の梨産業活性化のため梨花芽穂木の輸出に取り組んでおり、以下のとおり紹介いたします。

1. 「梨の花芽穂木」の輸出とは

台湾において日本梨の人気は高いが、温暖な気候により高品質な日本梨の栽培は困難でした。1970年台に日本梨の花芽を台湾在来種に接木する技術が確立され、日本から主に「新興」「豊水」「幸水」の花芽穂木が輸出され台湾において栽培されています。

2. JA全農にいがたの花芽穂木の取扱い

JA全農にいがたは、農家の所得向上と台湾側のニーズに応えるため平成9年より花芽穂木の輸出を開始し、本年度で22年目となります。

現在では県内6JA（JA新潟市、JA北越後、JA新潟みらい、JA新津さつき、JA越後中央、JAにいがた南蒲）で取組みを行っており平成30年度では約24t（新興19t、豊水5t、計4,600万円）の輸出を行ないました。

本県の花芽穂木は、現地の農業団体および生産者から高い評価を受けており、定期的に台湾へ営業訪問をおこなうとともに集荷拡大に取り組んできました。



花芽穂木を台湾在来種に
接いだ様子



台湾園地視察の様子

3. 花芽穂木の出荷のメリット

花芽穂木を出荷することで以下のメリットがあります。

- ①剪定枝として廃棄されるものを花芽穂木として出荷することで梨農家の収入源となります。
- ②冬場（11月、12月）の安定的な収入の確保につながります。
- ③出荷前のシーズン値決めにより、収入の見通しが立てやすい。

4. 花芽穂木の出荷依頼について

台湾における花芽穂木の需要は高いため、さらなる輸出拡大が求められており、集荷数量の拡大に向け、JAと連携し、労働力支援を順次拡大していきたいと考えています。

梨生産者の皆様のさらなる収入確保につながる花芽穂木の出荷にご協力いただきますようお願いいたします。

以上

（園芸部 花き・直販課）